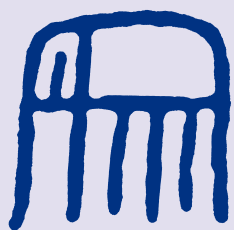


同窓会報



〒610-1197 京都市西京区大枝杵掛町 13-6
京都市立芸術大学美術学部同窓会 象の会
発行人：同窓会会長 上村 淳之
TEL/FAX 075-334-2218
携帯 /090-7353-6999
http://www.kyogei-ob.jp
E-mail info@kyogei-ob.jp

ガラパゴス讃

京都市立芸術大学 学長

鷲田 清一

この四月より学長職を務めさせていただいております。下京区で育ったものですから、子どもの頃から東山の芸大の学生さんたちとはしばしば往来ですれ違うこともあって、えらい派手なにいちゃんたちやなあと、あっけにとられたりしてきました。

昨年の暮れ、まだ就任していないのに、《漂流するアクアカフェ》という、学長から教員、卒業生、学生らごちゃまぜの集いに招かれたのですが、討論のテーマがなんと「芸術にとって本当に芸術大学は必要ですか?」。これから学長になる予定の者にこのテーマはないんじゃないか……と、なんとも手荒な歓迎に面喰らいました。

でも、先輩後輩関係なし、言いたい放題のおしゃべりのあと、会場だったお寺の奥の間に、手作りのオートヴルやごつく切った生野菜とともに、大きな鍋が具や菜・葉もなしにどんと置かれたときは、そのあとどういう展開になるのか想像もつきませんでした。そして大量の餃子のネタと皮が横のテーブルに置かれるや、陶芸や彫刻の大先生からOB、学生までがあたりまえのように餃子をくるんでゆく。そして沸き立った鍋の蓋を開けてばいばい入れる。その手際のよさ、隔てのなさに、仰天しました。

着任してからもおなじように、面喰らうこと、あっけにとられることが続きました。

「SILENT@KCUA 2015」開催中

東日本大震災復興に関わる活動をしている団体等の支援と京都市立芸術大学の学生の芸術活動支援を目的としたチャリティーオークション「サイレント・アクア2015」（大学主催、同窓会後援）が9月12日（土）から9月23日（水・祝）まで京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA（アクア）に於いて開催されます。本展には多くの同窓生が出品されていますので、同窓生や市民の皆様に見ていただき、よい作品があれば是非とも入札（ネットwebでも可能）くださいますようお願い申し上げます。



昭和24年京都生まれ

昭和47年に京都大学文学部哲学科卒業後、関西大学教授、大阪大学教授、大阪大学総長などを歴任。大阪大学名誉教授、大谷大学客員教授、せんだいメディアテーク館長。哲学者。主な著書に「分散する理性」、「モードの迷宮」、「聴く」こと力。平成16年 紫綬褒章、平成24年 読売文学

着任早々、事務局の人にキャンパスを案内してもらおうと、すれ違う学生のことを逐一、どういう学生か教えてくれる。一回生の総合基礎実技の作品展では、朝からニセ応援団の熱い出迎えを受けたり、事務棟の階段に可愛くも意味不明なマスコットが飾られていたり、トイレにあつという仕掛けがしてあったり。五芸祭では、中央広場でどこからともなくサンパのリズムが始まり、学生のみならず職員までが居ても立ってもいられなくて職場放棄で踊りの輪に入ったり。

コンプライアンスなんぞという強迫観念のなかで、いずれの組織も、それぞれのセクターが閉じこもり、萎縮していくなかで、ああ、まだこんな風通しのいい大学があったんだと、ちょっとばかり熱くなってしまいました。

教員も事務も学生のことをほんとうによく知っている。なれない学長にも学生のほうから声をかけてくれる。あ、やばいというようなことでも、職員はぎりぎりのところで黙って見てしてくれる……。そんな古きよき大学がいまもあるとは、着任前は想像もしていませんでした。

というわけで、《自由》という名のこのガラパゴスをしっかり守るというところから、わたしの仕事は始まりました。

Head line

ガラパゴス讃	1
2015 年度 同窓会役員会と総会、懇親交流会の報告	2
同窓会役員名簿（2015 年度）	3
同窓生だより 京都芸大のラグビー部	4
「京都芸大同窓会アートフェア 2016」 作品募集要項（作品出品のお願い）	5
京都市立芸術大学美術学部同窓会展 「移転と改革 - 1970 年代を中心に」	6
2014 年度「京都市立芸術大学作品展」同窓会賞受賞作品	9
着任のあいさつ	10

キャリアデザインセンターからのお知らせ	12
芸術資料館収蔵品展 後期	13
五芸祭の報告	13
Relay Talk 「象の会・いろあわせ」	14
同窓会終身会費の締め切り	14
「同窓生名簿 2015」の発行と頒布	15
今年も芸祭に「象の店」出店	15
事務局だより	16
編集後記	16

2015 年度 同窓会役員会と総会、懇親交流会の報告

本年 6 月 27 日(土)に同窓会役員会、総会、懇親交流会(ホテル日航プリンス京都)を開催しました。総会は 5 年毎開催を原則としていますが、前回は 2012 年開催で 3 年目の開催となりました。その理由は、大学創立周年事業の年と同窓会総会開催年を同期(5 の倍数の西暦年)させるためです。

役員会と総会を併行進審議し、2014 年度の事業報告、決算報告や 2015 年度の事業計画、予算など 7 件の議案が提案・審議され、全議案が承認されました。その概要を報告いたします。役員会出席者数 58 / 76 人(出席者 32 人、委任状 26 人)、総会出席者 881 人(出席 53 人、委任状 828 人)

なお総会には、鷲田清一新学長や廣野副理事長、高畠事務局長の来賓にもご出席いただき挨拶をお受けしました。懇親交流会は、ビンゴゲームなどで楽しみ、和やかな交流の場となりました。

【議案 1 2014年度事業報告】

- ・ 新入生に入学記念品贈呈 (4/3)
- ・ 2014年度役員会開催 (6/29)
- ・ 「芸祭」で模擬店<象の店>出店 (11/1~3)
- ・ 大学支援金 (50万円)
- ・ 芸大友の会費 (10万円)
- ・ 大学との意見交換会 (5/27、11/27)
- ・ 総務委員会開催 (4 回)
- ・ 音楽学部同窓会「真声会」との連絡会議 (2 回)
- ・ 会報象の発行 (2 回)
- ・ 芸大作品展に同窓会賞授与 (12点)
- ・ 「同窓会展」開催(移転と改革:1970年代を中心に) 2/14 ~3/1 @KCUA

【議案 2 2014年度会計報告】

- ・ 一般会計=収入:13,241,408円 支出:7,252,073円
* 終身会費納入増(675万円)による収入増
差額:5,989,335円<次年度へ繰越>①
- ・ 特別会計=収入:12,300,000円
<繰越金10,300,000+200万円繰入>
支出:なし
差額:12,300,000円<次年度へ繰越>②
- ・ 名簿会計=収入:1,973,630円
<繰越金1,313,630+名簿予約66万円>
支出:115,105円<名簿発行調査費など>
差額:1,858,525円<次年度へ繰越>③
- ・ 財産合計=20,147,860円<①+②+③>

【議案 3 2015年度事業計画】

- ・ 新入生に入学記念品贈呈 (4/2)
- ・ 「五芸祭」支援<京都で開催> (5月)
- ・ 2015年度役員会、総会、懇親会開催 (6/27)
- ・ 「同窓生名簿2015」発行 (7/1) ・ 大学支援金 (50万円)
- ・ 「芸祭」で模擬店<象の店>出店 (10/30~11/2)
- ・ 芸大友の会費 (10万円)
- ・ 大学との意見交換会開催
- ・ 総務委員会開催
- ・ 音楽学部同窓会「真声会」との連絡会議 (2 回)
- ・ 会報象の発行 (2 回)
- ・ 芸大作品展に同窓会賞授与

【議案 4 2015年度予算案】

- ・ 一般会計=収入:10,490,000円 支出:7,902,000円
差額 2,588,000円を次年度に繰越予定
- ・ 基金特別=収入:12,302,000円
支出:7,200,000円
<「アートフェア2016」会計へ貸付>
差額 5,102,000円を次年度に繰越予定
- ・ 名簿会計=収入:5,048,525円
支出:4,995,000円<名簿発行編集費>
残金:53,525円

【議案 5 一大学移転支援事業-「京都芸大同窓会アートフェア2016」】

- ・ 一大学移転支援事業-「京都芸大同窓会アートフェア2016」開催
2016年3/26~4/3 ギャラリー@KCUAにて <内容は別掲>
- ・ アートフェア特別会計(支出金額を超えた売上金額は大学移転支援金とする)
収入:7,500,000円
<借入金720万円、繰出し金30万円>
支出:7,500,000円
<事務120万円、図録110万円、設営保険人件費など400万円、管理委託120万円>

【議案 6 個人情報取り扱いガイドライン案】 同窓会HPに掲載

【議案 7 2015~20年度同窓会役員案】<別掲>

【会議での主な意見・質問】

- ・ 大学に映像の学科を設けるべき 大学移転には過去の移転経過を総括することが重要
- ・ サイレントアクトの被災地寄付金の内容について
- ・ アートフェア事業は大学移転までに複数回実施する計画か?
- ・ 個人情報の変更届け出等はメールでも可能として欲しい
- ・ 「同窓会会長をこの総会で退任させてほしい。後任は望月副会長を推薦する」との発言(上村)。この件は緊急動議として提案され、議長が会議に諮ったところ反対多数で否決されました。

上村会長	鷺田学長
役員会・総会	大学来賓



同窓会役員名簿（2015年度）

●印は新幹事

名誉会員	梅原 猛	中西 進	潮江 宏三	建昌 哲	
顧 問	中井 貞次	川村 善之			
名誉会長	鷺田 清一（理事長・学長）				
名誉副会長	廣野 貴夫（副理事長）	高縄 喜代彦（事務局長）			
	学 内	学 外			
会 長		上村 淳之（1957（昭32）日）			
副会長		望月 重延（1967（昭42）塗） 阿部 緑（1983（昭58）染）			
代表幹事	安井 友幸（漆工）	野崎 邦雄（1969（昭44）洋）			
会 計	西田 真人（日本画）	●東田 幸治（1983（昭58）油）			
監 査	長谷川直人（陶磁器）	水野 収（1979（昭54）日）			
幹 事	サイモン フィッツジェラルド（油画）	三宅 五穂（1951（昭26）彫）	中井 貞次（1954（昭29）染）	榊原 吉郎（1957（昭32）洋）	矢田 精治（1958（昭33）洋）
	出原 司（版画）	芦田 裕昭（1959（昭34）日）	伊藤 義明（1959（昭34）図）	舞原 克典（1961（昭36）洋）	二階堂 忠（1962（昭37）洋）
	金氏 徹平（彫刻）	●川口 凱正（1963（昭38）日）	佐野 賢（1966（昭41）彫）	古川加津夫（1970（昭45）D）	竹内 三雄（1972（昭47）彫）
	砥綿 正之（構想設計）	中野 順二（1972（昭47）塗）	出井 豊二（1973（昭48）D）	佐藤 敬二（1974（昭49）D）	杉本 清（1974（昭49）D）
	滝口 洋子（VD）	小山 格平（1976（昭51）D）	岩間 香（1977（昭52）日）	酒井 雅子（1978（昭53）洋）	市川 博一（1982（昭57）陶）
	藤本 英子（環境D）	児玉 靖枝（1984（昭59）油）	村岡 幸信（1985（昭60）日）	河原 有伽（1986（昭61）版）	茶谷 文子（1986（昭61）P.D）
	塚田 章（PD）	谷本 天志（1989（平1）油）	安藤 吉準（1989（平1）構）	辻野 宗一（1990（平2）日）	新田 恭子（1990（平2）染）
	日下部雅生（染織）	安井 健二（1992（平4）VD）	渡邊 野子（1993（平5）油）	福岡 崇（1994（平6）P.D）	吉岡 佐知（1995（平7）日）
	伊東 徹夫（総合芸術学）	新道 牧人（1997（平9）彫）	福本 双紅（1997（平9）陶）	正垣 雅子（1998（平10）日）	新道 尚美（1998（平10）陶）
	横田 学（教職）	川越 里美（1998（平10）陶）	北里美絵子（1998（平10）染）	黒川 彰宣（1999（平11）彫）	人長 果月（1999（平11）構）
		徳永 杏子（1999（平11）VD）	小川久美子（1999（平11）染）	関林 宏祐（2001（平13）日）	谷口 晋也（2001（平13）陶）
		吉岡 千尋（2004（平16）油）	毛呂 祐子（2004（平16）芸）	井手本貴子（2005（平17）日）	久門 剛史（2005（平17）彫）
		佐野 暁（2005（平17）漆）	古川きくみ（2007（平19）環D）	公庄 直樹（2007（平19）漆）	小西 愛子（2008（平20）環D）
		中村 潤（2009（平21）彫）	村田ちひろ（2009（平21）染）	萩原 佳奈（2010（平22）漆）	●村井 都（2013（平25）版）
		濱野 志織（2014（平26）芸）			

「Gentlemen play roughly」

発祥地英国での、ラグビーにおける考え方である。同様に「ラグビーは紳士のスポーツ」とも言うが、それよりも先の英文が、プレーヤーである自分の実感として正鵠を得ているように思われる。

ラグビーは紳士のスポーツか。否、全くもってそんなことはない。一度キックオフの笛が鳴れば、殺気だった選手達がドツキ合いに近い試合を繰り広げる。寝転がってしようものなら踏まれようが蹴られようが文句は言えない。どの口が紳士などと言うのか。しかし、彼らは、少なくとも私の周りの人々、京都芸大ラグビー部OBの面々は紳士ではないが確かにGentlemenである。

我々には、暗黙の了解が必ずある。多分どのチームにも。

「痛がらない、こわがらない、ノーサイドまで試合をあきらめない」。

誰に教えられるわけでもなく、この感覚がある。そしてこれを実行できないものは、ラグビープレーヤーたる資格がないと言い切ってよい。またこの感覚を言い換えてプライドと呼ぶ。そこに「Gentleman」と「紳士」、二つの言葉の違いがある。紳士という漢字の語感には表面的な態度、行為を示すように思えるのだが、対してGentlemanは生き方そのものを指す言葉であるように思えてならない。自分なりのプライドを持って生きることができているか、それを貫くことができているかどうか。それはすでに生き方の哲学といってもよいものであろう。そうして生きている人間をGentlemanと呼ぶのではないか。

0つまり、紳士とはGentlemanの小さな一側面に過ぎないのであって、それをして単に優しく丁寧な人を言うのでは全くない。

だからフィールドの中でも外でもジェントルメンはGentlemenなのである。そういう人の人となりとは、プレーを見ればすぐにわかる。

私が現役部員だった頃、Gentlemanな先輩方のお世話になった。本当にお世話になった。いまだきびつくりするほどひたむきな姿勢でラグビーをする人たちだった。そして彼が今もそのまんまなのがとてもうれしい。また、後年大学のクラブ以外のラグビーを知るようになってから、京芸ラグビー部の、ラグビーに対する気持ちの純度の高さをまざまざと知ったものだ。その思いを支える言葉こそ、それは、いわく「底辺で胸を張れ」だと思う。それがそのまま我々のプライドになっている。

一般大とは違い、男子学生はいよいよ少なく、メンバーは1チーム分15人にも満たない。だが、それがどうした。自分たちは京芸ラグビー部である。何を恐れることなく底辺で胸を張って走るのだ。そしてその四年間で学び取った何かを財産に、それぞれの生き方を選び取ってきた面々が我々なのだ。

何をしゃっちょこ張って恥ずかしいことをと思われるだろうか。全くそんなことはない。

この気持ちは普段から持っているものだし、恥ずかしいとも思っていない。あえて言葉にすることなくこの思いを共有できていると信じている。

現在の京芸ラグビー部OBの活動とは、まさにそういうことであり、年に何回かのOB戦やその他を通して現役部員に上記の思いを伝えていくことである。ラグビーだけでなく、モノ作りをする人間としてどう生きていくか、どう考えていくかのヒントを与え続けてゆきたいと考える。大変不器用でそっけないやり方ではあるが。

私は先輩によくおごっていた（今もそうだが）。そして、よくこう言われてきた。

「俺らからもろた分を、お前が後輩に返していってええんや。」

そう言うてくださった先輩はみな、もれなくGentlemanだった。

今、OBとして自分自身に問う。自分は京芸ラグーマンとして、プライドを持てたのだろうか。自分は底辺で胸を張り続けてこれたのだろうか。自分は、先輩達からもらったものを後輩に返せたのだろうか。自分は、Gentlemanだろうか。

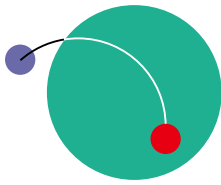
「Gentlemen play roughly」

体を削るような荒々しさと、危険が前提であるこのラグビーというスポーツにおいて、誇りと優しさを持つ人間がプレーするからこそ、この言葉は成り立つ。そんな京芸ラグビー部の一助になれることを喜びに思う。

この場を借り、真のGentleman、三宅多喜男先生、野沢健一郎先生、谷口青児先生のお名前を揚げ、このお三方が我々京芸ラグビー部を見守り、育ててくださったことを感謝とともに記しておきたい。



新ジャージを着て
2015年5月23日
五芸祭 京都大会 OB戦
宝ヶ池球技場



京都芸大同窓会 アートフェア 2016

京都市立芸術大学移転支援事業

作品募集要項(作品出品のお願い)

同窓会象の会は、6月末開催の総会で「京都芸大同窓会アートフェア2016」の開催を正式に決定しました。このアートフェアは、母校芸大が京都駅東の崇仁地区へ移転することを支援し、あわせて同窓会の拠点施設整備実現を主たる目的にしています。

2010年にも大学創立130周年を記念して同窓会アートフェアを開催し、その収益金を大学支援のため寄付しましたが、今回はその2回目となります。

本アートフェア開催の趣旨に賛同いただける同窓生(本学に在籍した卒業生や修了生、大学院生・教員、元教員など)に広く呼びかけ、出品作品を募集します。ぜひご出品をお願い致します。詳細は次のとおりです。

主催 京都市立芸術大学美術学部同窓会象の会(アートフェア2016実行委員会)

後援 京都市、京都市教育委員会、京都市立芸術大学、京都商工会議所、NHKなど他関係団体(予定を含む)

期間 2016(平成28年)年3月26日(土)～4月3日(日)

場所 京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA(アクア全館)
＜〒604-0052京都市中京区押油小路町238-1
☎075-253-1509＞

オープニングレセプション/3月26日(土)17時～ 展示会場にて

◎プレ展示の開催/2016(平成28年)年3月11日(金)～13日(日)

場所＝京都芸術センターにて(3ミーティングルーム2、4階和室「明倫」)
＜〒604-8156京都市中京区室町通錦蛸薬師下る山伏山町546-2 ☎075-213-1000＞

- ・本催事のプレス発表と事前広報を目的とした内見会的催事です。
- ・オークションは行いません。
- ・エントリーされた作品の中から主催者が作品を選んで展示します。

●募集作品

- ・同窓会会員(母校に在籍した方、現大学院生、教員、元教員など)が制作した作品。
- ・作品の既発表、未発表は問いません。
- ・同窓会員ご遺族の応募も可能です。
- ・作品のジャンル、素材は問いませんが、平面は10号Fサイズを基準とし、立体は90cm立方以内で10kgまで(一人が手に持って移動可能重量)とします。
- ・出品者一人2点までを基本とします。
- ＜主催者が展示に適さないと判断した作品は除外します＞

●エントリー

- ・作品の募集期間は、2015(平成27年)年10月1日(木)～11月21日(土)＜展示キャパを超えるエントリー(300点程と想定)があれば、途中でも締切ることがあります＞
- ・エントリー用紙に必要事項を記入し、郵送、FAX、webなどで同窓会事務局へ送付ください。(エントリー用紙は、この会報象に同封されています)用紙は同窓会ホームページからダウンロードできます。
- ・出品料は無料です。

●作品搬入

- ・主催者から特に連絡の無い限り、エントリーされた作品は指定された搬入先へ送付または直接ご持参ください。送付に係る経費は、恐縮ですが出品者でご負担ください。
- ・搬入期間＝2016(平成28年)年3月18日(金)～22日(火)午後4時まで
- ・搬入場所＝主催者が賃借する作品保管施設(後日、エントリーされた方にご連絡いたします)

●応募作品の帰属

- ・本アートフェアに応募され、オークションで落札された作品は、出品者から同窓会へ寄贈されたものとします。
- ・オークションで入札不調となった作品は、主催者の費用負担で出品者に返送いたします。

●展示方法

- ・作品には「タイトル」「作家名」を表示して展示します。
- ・出来るだけ多くの作品を展示するため、展示方法は主催者に一任いただきます。

●オークション

- ・オークションは入札で行い、展示会場でもネット(web)でも入札できます。
- ・入札最低価格は、1点1万円以上とします。(1万円以上での入札を有効とします)
- ・同作品が同価格で複数入札された場合は、先に入札された方を有効とします。
- ・入札は、展示されている現姿の価格です。(額装等を含む価格)

●収益の寄付先

- ・本アートフェアで得られた収益から運営に要した経費等を差し引いた金額を、大学移転支援金として公立大学法人京都市立芸術大学へ寄付します。

●その他

- ・作品の保険＝作品を受け取ってから主催者の手を離れるまで、主催者の責任で作品に保険をかけます。
- ・図録の制作＝出品作品を網羅した図録(カラー版)を作成し出品者と落札者に配布します。
- ・落札された作品のお届け、代金領収などの事務は主催者が責任をもって行います。

●問い合わせ

- ・本催事の運営/プロデュースは、「ジ・オフィス」(代表者:辻 喜代治、1973年塗装専攻卒業)に委託しました。本催事に関する問合せ等は、同窓会事務局または「ジ・オフィス」へお願いします。

連絡先:〒610-1197 京都市西京区大枝杏掛町13-6
京都芸大美術学部同窓会事務局(開本恭子)
電話/FAX 075-334-2218 携帯/090-7353-6999
Email: office@kyogei-ob.jp
連絡先:〒600-8467 京都市下京区麓町628-1
ジ・オフィス 辻 喜代治
電話/075-371-8420 携帯/070-5430-9567
Email: theoffice.kt@nifty.com

京都市立芸術大学美術学部同窓会展

「移転と改革 - 1970 年代を中心に」

会期＝2015年2月14日(土)～3月1日(日)

記念講演／木村重信先生「京芸大・激動の1970年代」

会場＝京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA (アクア)

主催＝京都市立芸術大学、同・美術学部同窓会象の会

協力＝同・芸術資料館



記念講演

高度経済成長を達成し、経済大国となった日本を象徴するイベントとなった1970年の日本万国博覧会では、「人類の進歩と調和」をテーマに掲げ、総合プロデューサーの岡本太郎氏をはじめ、多くの芸術家たちがイベントや展示に関わりました。また、この万博への熱狂、そして反発も相まって、さまざまな分野の若き表現者たちが、挑戦的な作品を数多く発表していきます。それには、豊かな社会が現実のものとなり、大量生産の時代から多品種少量生産の時代へ、つまり他者との差異化、個性的な消費という趣向の変換がみられた社会背景も少なからず影響していたと言えましょう。本展では、若者の消費文化が新しい表現を牽引し、表現の方法も一気に多様化していったこの時期に、京都市立芸術大学にて教鞭をとった教員や学生たちの作品を展覧します。この頃本学では、総合基礎実技のカリキュラムが導入されました。さまざまな表現領域に触れることのできる新たな環境は、まさにこういった時代の兆候を反映していたのではないのでしょうか。本展が、いまなお新鮮な驚きをもって感じることのできる、情熱と野心に満ちあふれた1970年代を振り返り、また改めて捉え直す機会をもたらすものとなれば幸いです。



石田有作
「黒釉花器 双」
陶磁器／1970 年制作



鶴田憲次
「時空」
西洋画／1971 年制作



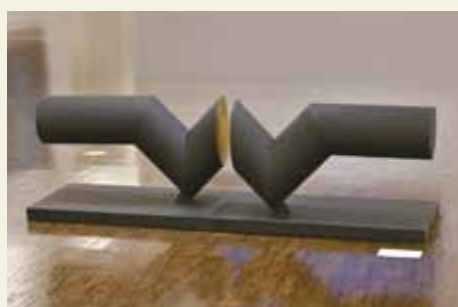
安東菜々
「Work」
染織／●年制作



田中 孝
「ひも」
西洋画／●年制作



小倉 博
「食籠」
塗装／1971 年制作



白鳥文明
「エネルギー」
彫刻／1972 年制作



佐久間嘉明
「浮遊」
西洋画 版画／1972 年制作



大西浩子
「炎」
染織／1972 年制作



大西浩子
「Heart-ache」
染織／1972 年制作



古川加津夫
「IMAGE 25-11」
デザイン／1973 年制作



奥村壽春
「風呂屋で独りほくそ笑む私」
陶磁器／1973 年制作



橋本文良
「Tee Shirt」
西洋画 版画／1973 年制作



青山俊夫
「研出時絵短冊」
塗装／1974 年制作



木村秀樹
「Pencil 1 ~ 7」
西洋画 版画／●年制作



竹内忠男
「李迪筆牡丹図」
日本画／1975 年制作



大西真由美
「織物壁掛」
染織／1975 年制作



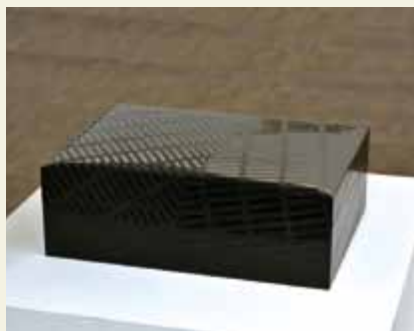
小森秋雄
「月刊誌のためのエディトリアルデザイン」
デザイン／1976 年制作



山本容子
「Cock Jonathan」
西洋画 版画／1976 年制作



吉川 充
「塩釉歟面足付盤」
陶磁器／1976 年制作



後藤健吉
「黒漆絵飾篋」
塗装／1976年制作



重岡良子
「とまと図」
日本画／1977年制作



松山和夫
「ARK II Orbit in Green」
西洋画／1977年制作



柴田良三
「壺」
陶磁器／1977年制作



吉田孝光
「11P.M WIDE SHOW」
西洋画／1977年制作



川村悦子
「迷路」
西洋画／1978年制作



小西通博
「北行」
日本画／1979年制作



小田英之
「Rg10-129」
西洋画／1979年制作



佐藤恵吉
「盤空隙」
陶磁器／1979年制作



山岸 純
「涵」
日本画／1973年制作



石本 正
「二人の裸婦」
日本画／1979年制作



中井貞次
「間の實在」
染織／1977年制作

2014 年度

「京都市立芸術大学作品展」同窓会賞受賞作品（12 点）

会期＝2015年2月11日～15日

会場＝京都市立美術館、京都市立芸術大学構内



Unforgettable Landscape of Kyoto

－京都におけるバス停の提案－

馬場 智嘉

デザイン専攻（環境デザイン）院2回生



オモイデノツツキ

久保 文音

絵画専攻（日本画）院2回生



ある日のE X～レーガンさん～

六人部 侑子

美術科油画専攻4回生



「Penguin Paddles」プロジェクト

沢水 彩香

美術科構想設計専攻4回生



keeping/making loose

今井 菜江

美術科彫刻専攻4回生



fenestra II

平田 彩乃

絵画専攻（版画）院2回生



Lotus

齊藤 晴奈

デザイン科 ビジュアル・デザイン専攻4回生



X

高木 侑里子

デザイン科プロダクト・デザイン専攻4回生



変わらない眼差し

高江洲 佳乃

工芸科陶磁器専攻4回生



限りない無の予感がある

小川 智美

工芸科染織専攻4回生



アリゲーター・ガー

山田 真澄

工芸科漆工専攻4回生

敦煌莫高窟第285窟の壁画制作における下描きの役割に関する研究

中田 愛乃

保存修復専攻（保存修復）院2回生

2014年度と2015年度に新任で大学に来られた先生方をご紹介します。

新任の先生方の紹介は、これまで2月に発行されていた同窓会誌 象で扱ってきましたが、統合されたため昨年度は抜け落ちておりました。この号でまとめてご紹介致します。

工芸科 陶磁器研究室 特任教授

永樂 善五郎



嘗て大学生の頃は学校の近くに下宿をしており、電車での通学は凡そ50年ぶり、高校卒業以来の事です。最初は若い頃を思い出して少し楽しみでもありましたが、普段とちがう生活のリズムや、家と学校を往復するだけのことでくたびれてしまいました。今年の春頃よりピタパの使い方にも慣れ、駅の階段、芸大前のバ

ス停より陶磁器棟への坂道、足腰の軽い運動と思い少し早足で歩いております。又、若い人に私が居る事で何かを感じてもらえるよう、学生の間をうろついております。

デザイン科 ビジュアルデザイン研究室 准教授

楠田 雅史



1988年に本学・大学院（環境デザイン）を修了し27年の月日が過ぎ、ビジュアルデザイン科の教員として、この地に戻ってくるなどとは、着任して1年を経過した今でも白日夢の中にいるような心持ちです。在学中、デザイン雑誌に「グラフィックデザインとスペースデザインの分水嶺で、バランスを保ちながら観られることを目的とした空間をつくり続けてゆきたい。」という文章を寄稿しましたが、結局、現在にい

たるまでデザインの現場で同じテーマのまま、様々な模索を続けています。社会のあり方が大きく変容を遂げている今、デザインがすべきことも大きな変革を求められています。そしてそれをおぼろげながらも感じ、様々な分野を軽々と横断し発想する、本学の学生たちにとって、私の現場経験に基づいた指導が、彼らの将来へのヒントになれば良いなと考えています。

美術科 版画研究室 准教授

吉岡 俊直



昨年、版画専攻の教員に赴任した吉岡俊直です。木村秀樹先生の後任として、シルクスクリーンを担当します。学部、大学院と京都芸大で学び、木村先生は、私が大学院に進学した時点で京都芸大へ赴任して来られました。そして、大学院の2年生になった時、吉原英雄先生が退官されたので、吉原先生と木村先生の両氏が重なっていたわずか1年間という、いわば、変化の間、汽水域に在籍していた事になります。その、母校に戻って来た訳ですが、未だ変わらぬ部

分と、学生時代には無かった新しい部分とが、日々交錯しています。特に、教員の立場で、京芸内部に関わると、思いのほか、大学移転の会議や、議題等が多く、10年先と置いていた私としては、もう既に、数年先に大引越が始まる様な雰囲気を感じています。大変重要な案件だと思っています。おそらく私の任期中に、この沓掛の土地でのまとめと、崇仁での立ち上げが、前後10年近く横たわっている訳です。再び、汽水域に立っているのだと感じています。

美術科 油画研究室 准教授

伊藤 存



僕はついぶん前に構想設計を卒業して、しばらくしてから展覧会などで作品を発表する活動を始め、それから15年くらい経ってまた京都芸大に今度は油画の講師として戻ってきました。

学生時代はどちらかというとあまり自分の制作もせず、面白そうなものを見つけてはふらふらと吸い寄せられていくような生活をしていました。なので、自分の制作というものをちゃんと始めたのは大学を出てからでした。今僕が興味があるのは、芸術大学という中で多くの学生が隣り合わせの状態です。それぞれ自分の作品を生み出していくという状況に混ざっていくという事です。ある種特殊な状況の中他者と同居しながらどのように表現が生まれていくのか。それは自分が学生の時にはあまり経験をする事が無かったことです。また、そんな純粋培養のような状況から、どうやって外の世界

の中で表現の活動の場所を作っていくか、より良いあり方を学生たちと考えていければと思っています。

このあいだ、総合基礎の学生たちだと思うのですが、みんなで大掛かりな流し素麺の装置を作って、大勢でにぎやかに楽しんでいる姿を見かけました。ふだんは個々の制作をしていても、すぐにこんな遊びが出来る芸大には昔と同じ気分が流れています。制作も大事ですが、遊びのスキルも卒業までに沢山蓄えてほしいです。きっと外の世界で役に立ちます。

さらに話は飛びますが、最近大学生が中心になって安全保障関連法案に反対するデモを組織して真剣に活動しています。僕はこんな若い世代と近い場所に居る事を嬉しく思っています。

総合芸術学科 総合芸術学研究室 特任講師

砂山 太一



京都市立芸術大学に講師として採択いただいてから一年が過ぎました。少しずつ先生方や職員の方に顔と名前を覚えはじめていただいているようで嬉しいかぎりです。学生は皆真面目で活気に溢れとても頼もしくおもいます。

中央棟4F総合芸術学専攻の学生たちが普段研究に勤しむ部屋の奥に、私の研究室はあります。窓からは西山が間近に見えます。私は大学のある洛西地区で育ちました。幼少期から思春期にかけて毎日眺めていたものと同じ風景がそこには広がっています。時折覆う山霧に時の流れを思

いっつも、研究室の中を見回すと、まだ引っ越しそのままのような状態が保持されていることに気づきます。大学での生活にはなれたものの、自分の居場所は確立できていないのかもしれないと自戒しつつ、手始めにデザイン学の教員らしく気の利いたフローリングマットでも敷こうかしらと思っている次第です。

大学におられる方やいらっしゃる方にお気軽に訪ねいただき、くつろいでお話できるような環境が作れればとおもいます。

美術科 日本画研究室 特任教授

大野 俊明



2015年4月から特任教授として美術科日本画専攻の授業を担当しています。昨年3月には成安造形大学を退任し、これからは“絵描き三昧”を決め込んでいた矢先に就任要請を受けました。新たに立ち上げられたカリキュラムの中で、模写を通して古典絵画を深く理解し新たな創作活動につなげて行く授業を担当することになります。私自身は創作活動と並行して1972年から二条城二之丸御殿の障壁画模写事業に参加し現在も継続しています。切っ掛けは、京都芸

大在学の折に所属していた模写室で古典絵画にふれ、模写を通して得た興味と深い関心から始まります。専攻科へ進学後、二条城で始まった障壁画模写事業に参加する機会を得て以来43年が過ぎました。大学では創作のための古典研究や模写制作の必要性をこれまでの経験を交えて若い人達に伝えたいと考え再び教鞭を取ることにしました。新たな大学づくりにつながればと願っています。

総合芸術学科 総合芸術学研究室 講師

竹浪 遠直



本年度前期より東洋美術史を担当しております。3月までは西宮市にある黒川古文化研究所という民間の研究機関で中国絵画を研究しておりました。関西には古くから中国絵画の優れた作品がもたらされ、現在も多くの美術館・博物館で展示されています。水墨で描かれた山水画、繊細な花鳥画などを見ると、昔の人々の鋭い観察眼や細やかな感性に気づかされます。講義では、それらをはじめとする中国絵画の魅力や日本文化とのかかわりを伝えていけたらと

思っております。東北(青森県)の出身で就職してから関西に來ましたので、京都の歴史や文化に日々触れられる幸せを感じております。130年以上にわたる本学の伝統も、徐々に学ばせていただき、現代の京都において東洋美術のもつ意義についても考えていきたいと思っております。

共通教育 フランス語 講師

中村 翠



京都で学生時代を過ごしたあいだ、京都市立芸術大学は一度も足を踏み入れたことのない地でしたが、芸術でもできれば勉強もできるという噂が耳に入ってくる、謎の霧につつまれた大学でした。ですから、教員公募に応募し採用された時はまるで夢のようでした。才色兼備の高嶺の花にアタックして思いがけずOKをもらった、目立たない学生のような気持ちです。

私は美術に関しては素人で、だからこそ京芸の皆さんが作っているものには興味津々です。私の専門分野は言語芸

術とも呼ばれる文学ですが、最近では他の芸術ジャンルとの比較分析にも関心を持ち始めています。皆さんと情報交換を行うことができれば幸いです。

【略歴】大阪府生まれ。京都大学にて学部および修士課程を修了。2008~2009年度フランス政府給費留学生。最終学歴は、パリ第3大学ソルボンヌ・ヌーヴェル博士号(2012年)。専門は19世紀フランスの自然主義文学、とくにエミール・ゾラの作品研究。

美術科 日本画研究室 講師

三橋 卓



この度、滋賀県の中学校教員より、日本画研究室へ講師として着任いたしました。大学院を修了してまだ2年ほどしか経っておらず、自分の制作の土台や軸も、まだまだこれから測っていかなければならない程未熟ではありますが、この機会を存分に生かし、研鑽していく所存です。

この職に就き、はや数ヶ月が過ぎようとしています。学生の様子は、私が学生だった頃(つい最近ではありますが)に比べ、外へ発表の場を求めていく傾向が急速に進んでいると感じています。それは日本画も例外ではなく、公募展や学

外での展示、アートフェアへの参加など、様々なステージへ挑み、そこでたくさんのことを学んでいく学生が増えました。そういった姿勢は、今の学生のモチベーションやこれからの社会のニーズに必要なのかもしれませんが、さすがにこの京芸で身につけなければならないこと、気づかなければならないことも多々あります。内と外との学びのバランスが不可欠だと感じています。私はそういう学生の背中を引っ張りつつも押してやれる存在でありたいと思っています。

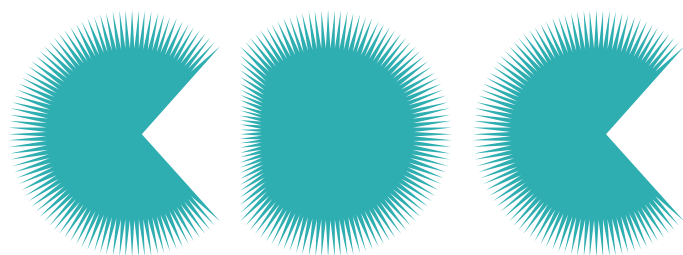
京都市立芸術大学キャリアデザインセンター

2015年4月1日からキャリアアップセンターから「キャリアデザインセンター」に名称変更しました。専門のアドバイザーを中心に、就職支援はもちろんのこと、若き芸術家の思いや意欲を形にするために助言を行ったり、形になったものを社会に結びつけるなどの学生へのキャリア支援を積み重ねて参りました。学生自身がキャリアをデザインし、社会の様々な場面に生かされるよう、継続的な支援を実施しております。様々な支援の中からいくつかピックアップして御紹介いたします。

- ・ART OSAKA 2015（国内外のアートシーンの潮流を紹介する場として今年で3度目となるアートフェア（会場：グランヴィア大阪）において本学特設コーナーが設けられ、在学生・卒業生5名が作品を出品しました）
- ・THE GIFT BOX（若手クリエイターによる作品の展示販売と音楽家によるミニコンサートを京都府文化博物館別館において開催）
- ・卒業生による講演会「10年後の京芸生」（美術2名、音楽2名の卒業生を招いて、各人が歩んできた道を在学生在がリアルに聞ける講演会）

この他にも、ポートフォリオセミナー、日本語文章作成講座、民間企業に就職した卒業生と在学生の交流会、就職ガイダンス等を開催しており、進路選択やキャリアデザインに役立っていると好評です。また、キャリア相談室をセンターとは別に整備したり、センター内の資料閲覧スペースを充実させる等、学生にとって利用しやすいセンターとなるよう工夫してきました。今後も卒業生とのネットワークを強めていきたいと考えておりますので、同窓会の皆さまとの引き続きの連携をよろしくお願いいたします。

キャリアデザインセンターロゴ



Career Design Center
Kyoto City University of Arts



ART OSAKA 2015



THE GIFT BOX

[お問い合わせ]

TEL:075-334-2348

Mail:career@kcua.ac.jp

HP: <http://www.kcua.ac.jp/career/>

facebook: <https://www.facebook.com/kcua.c.up>

twitter: https://twitter.com/KCUA_career

平成 27 年度後期 芸術資料館収蔵品展 (2015.9 ~ 2016.3)

今年で開校135年を迎えた本学の教育史において、当館の収蔵品は蓄えられてきました。今年はそれらを5つのテーマ・会期に分けて紹介していきます。第1期は近年の新収蔵作品、第2期は古画の模写作品、第3期は京都市立美術工芸学校時代に購入された陶磁器作品を展示しました。9月からは、本年度後期の展示が始まります。

第4期

「人・花・鳥 土佐派絵画資料展」

9月22日(火)~10月25日(日)

昭和28年に京都市立美術大学(現・京都市立芸術大学)に寄付された土佐派絵画資料は、中世から近代初頭にかけて受け継がれた稀有の粉本として貴重なものです。その中から、人・花・鳥を主題とした粉本類を紹介します。



土佐光吉《七十一番職人歌合》(部分) 1609年



浅井 忠《琵琶湖風景》1905年

第5期

「京都市立美術大学と陳列館

資料収集史戦後編」

10月31日(土)~12月6日(日)

昭和37年、京都市立美術大学今熊野校舎に陳列館が完成して以降、教員等による作品寄付が増え、近現代の美術資料群が形成されました。作品で回顧する、戦後における資料収集の歴史をお楽しみください。

五芸祭の報告 —総合1位—

5月21日~24日

今回の五芸祭を一言で表すとしたらやはり今回のテーマでもありました『強烈』という言葉がぴったりな五芸祭だったなと実感します。

芸大生ならではのひとりひとりの強烈な個性を活かし、

驚 作品を通し刺激し合える

響 演奏を通し高め合える

競 スポーツを通し友情を深め合える

京から明日にそんな自分を発進していける。

そんな大会を目指し、委員全員が一丸となって進めてきました。

結果としてしっかり果たせたのではないかと考えております。

途中は五芸祭の企画が進んでいくにつれて、人をまとめる難しさや期限、時間を守る。という当たり前のようなことができず、どうなるかと1年間不安を拭えない日々でしたが、他校の委員の方や京都の委員に支えられ、なんとか五芸祭を開催し、終えることができました。

感謝してもしきれないくらい私はこの大会を通じて大きくなりました。

本当に委員長をやってよかったと心から思っています。

これからもこの五芸祭での経験を生かし、なんでもチャレンジしていこう。そう思っています。

五芸祭実行委員長 山崎 麻子



同窓生が同窓生を紹介し、リレーしていく近況報告のコーナーで、懐かしい人と出会う楽しみ、いつか自分に廻ってくるかも知れないドキドキ感のある連載です。



やだ せいじ
矢田 精治

1958年(昭33)西洋画科卒業
所属クラブなど：野球部マネージャー

今年の7月は、傘寿の誕生日を迎え我が80年人生の大転機とも言える夏となった。それは、私が美術界への大いなる夢を描いた青春時代を過ごした母校京都美大時代への「回帰」とも言える時代錯誤を感じたことで、その要因は、この夏にわか降って湧いたように起った卒業後初の2つの絵画展の出展機会を与えられたことである。1つは母校美術研究会「2015-双線美術京都支部展」への出品であり、2つは私が東映を退職後主宰している「嵯峨水彩画教室」の開設15周年と私の傘寿祝記念で同教室生徒たちから「水彩画教室習作展」(8月)をプレゼントしてくれたことであった。

美大卒業後は、美術界からの「はみ出し者」として東映京都撮影所・東映太秦映画村そしてNPO京都映画倶楽部など、映画界に半世紀を超す58年間没入していただけに、美術界に回帰できた気がするはこの夏が初めてとも言える。

想えば、私の映画人生は波乱と激動の映画界にあったが、実に面白く悔いのない生きざまができたと自負しているし、映画界各位には改めて感謝もしている。これから残る余生、時間の許す限りもう一度楽しく燃えた美大青春時代の美術界の仕事に燃焼することができれば、と思っている今日この頃である。



次号に紹介される方は、
山田 沙さん
1958年(昭33)日本画科卒業です。
よろしく…



むらい みやこ
村井 都

2013年(平25)版画専攻卒業
2015年(平27)院(版画)修了

春から、立場を変えて

今年の春、大学院を修了し同窓会生となりました、村井と申します。会報に文章が掲載されるとあって大変緊張しています。

私は春より京都市立芸術大学の版画専攻の助手として指導者・サポートの立場で働いています。三月まで学生だった者が四月からは指導者、という大きく視点が変わる状況で、戸惑うことも最初は沢山ありましたが、最近は教授陣が学生にかかる言葉を聞きながら学生の頃の自分に言われた事の意味をやっと理解したり、学生と教授陣の丁度中間の立場で慌ただしくもどかしい日々を楽しく過ごしています。

学生の時には自分の制作・大学内の事しか見えていなかったですが、立場が変わったことで少し遠くまで視界が広がったように思います。学生のサポートをしながら、自身も恥ずかしくない作品を作っていきたいです。



次号に紹介される方は、
野嶋 一生さん
2014年(平26)版画卒業です。

同窓会終身会費の締め切り



既卒業生等を対象とした同窓会終身会費の受付期間は、2016年3月末日までです。終身会費への移行をご希望の方は、それまでに同窓会事務局までご連絡いただければ折り返し終身会費の金額などをご案内させていただきます。

「同窓生名簿 2015」の発行と頒布



5年毎に発行しています「同窓会名簿」の2015年版ができました。

入手ご希望の同窓会会員の方は、同封の郵便振込用紙で費用を同窓会事務局へ振り込んでください。

頒布価格 3,500 円（送料込）

頒布には、①同窓会会員であること
②同窓会費が支払われていること
などを確認しています。

この名簿は同窓生の交流と親睦を深めることを目的に発行しています。最近、同窓生の名前を騙りこの名簿を不正に入手しようとする場合がありますので、目的以外の使用や第3者への貸与転売をなさらないようお願いします。

【同窓生名簿 2015 の訂正】P.130 彫刻科 誤 「牛田啓三」→正 「牛尾啓三」 新名簿に間違いがありましたら同窓会までお知らせください。

今年も芸祭に「象の店」出店 (飲物ワンドリンク無料券：添付)

<10月31日(土)～11月2日(月)>

日時＝2015年10月31日(土)～11月2日(月)

12時～20時(2日は18時閉店)

場所＝京都市立芸術大学構内(中央棟2階南側出入口)

内容＝湯豆腐(協力/京とうふ藤野)、日本酒、ビールなど

卒業生、教員、在校生の交流の場を目指して、今年も模擬店「象の店」(店主：上村淳之会長)を出店します。同窓会は皆様のご来店を心からお待ちしております。

添付のワンドリンク券を持って、ぜひとも洛西大枝へおこしください。



芸祭テーマ「どくさい国家“やさしさ”」

普段の生活のなかで感じる、めんどろな気持ち、いやなことや、しんどいことを、この芸祭の三日間だけは忘れて、思い切り怠けられるようなお祭りを作りたい。

こんな思いから、やさしさという甘やかに満たされた国、どくさい国家“やさしさ”を芸祭テーマとしました。多くの人が、どくさい国家ときいて思い浮かべるような、過激なものはこの国にはありません。そのかわりに、学校じゅうを満たすのは、ただゆるゆると過ぎる時間の流れです。

このゆるやかな世界のうちに広がる、唄と踊りと、芸術と、そしてまくらとふとんが、入国された皆様を、ささやかに癒してくれることを願っています。

2015芸大祭実行委員長 岡本 秀

キリトリ線

平成27年度京都市立芸術大学祭 あたたか〜い湯豆腐のお店

美術学部同窓会 「象の店」ワンドリンク無料券

京都市立芸術大学構内 中央棟2階 南側出入口口付近

平成27年10月31日(土)～11月2日(月)

開店時間(予定) 12:00～20:00 (2日は18:00閉店予定)

※本券は美術学部同窓会「象の店」でのみ有効です。芸祭は11:00～開催予定。

美術学部同窓会



事務局だより

■ニセ名簿業者、同窓会関係者や同窓生を騙って情報を聞き出そうとする者にご注意を

「京都芸大の名簿・名鑑を作成します」と法外な値段で勧誘してくる業者、同窓生の名を騙って卒業生やそのご家族から個人情報を聞き出そうとする電話があります。同窓会からの案内は、同窓会の所在地（大学内に設置）や電話番号が正しいことを必ず確認して対応ください。不審な点は同窓会へ電話などで直ぐにお問合せください。

■満80歳以上の会員 会費免除申請について

過去10年間同窓会会費を継続して納入いただいた満80歳以上の会員で会費免除を希望される方は、その旨、同窓会事務局へメール、FAX、郵便などでお申し出ください。

■同窓会会費納入のお願いと終身会費制の移行について

同窓会は皆様の会費によって運営されております。年1,000円、2年分まとめて2,000円として納入をお願いします。2014年3月に卒業・修了された会員から希望者に会費の「終身会費制」を実施していますが、既会員にも希望者には「終身会費制」への移行ができる暫定期間（2014年4月～2016

年3月末）を設けております。既に多くの会員が終身会費制に移行されておりますが、この機会に終身会費に移行を希望される方は2016年3月末までに同窓会事務局までご連絡いただければ折り返し終身会費の金額などをご案内させていただきます。

■同窓会後援名義使用について

同窓会会費を納入されている会員が主催する作品展など（個展、グループ展）で同窓会の後援名義使用を希望される方は同窓会事務局へご連絡ください。

■展覧会の案内、情報をお寄せください

同窓会宛に送っていただいた展覧会の案内、情報はホームページや会報に掲載しています。

■氏名、住所、電話、FAXなどを変更された時は連絡をお願いします

お忘れになると会報などの諸情報をお届けできなくなります。表紙ページに記載の連絡先へ郵便、FAX、メールのいずれかの方法でご連絡ください。ホームページの住所変更フォームからも変更できます。

編集後記

●本学も今春より新しい学長（理事長）鷺田清一先生をお迎えし、また、大学の長い歴史に続く新しいページが開かれました。

●特に、9年後となった京都駅前への大学移転事業も、大学内外で会議が重ねられ、着実に一步一步実現に向けて歩みを進めています。

同窓会も少しでもお役に立ちたいと、「京都芸大同窓会アートフェア2016」の開催を計画、実行委員会を立ち上げ企画を立案し、去る6月27日の同窓会象の会役員会・総会にて承認されました。いよいよ同窓会の皆様から多くの作品をご出品いただきますようお願い申し上げる次第です。

●また、本年も芸大祭において、恒例となりました同窓会模擬店「象の店」を出店いたします。どうぞ皆様、本報内〈ワン

ドリンク券〉をご持参いただきまして、秋のひとつきを「象の店」でお楽しみいただけましたら幸いです。美味しいお酒と湯豆腐で皆様をお待ちしております。

●本報より新しく「リレートーク／象の会・いろあわせ」を企画、連載することになりました。毎回、同窓生お二人がそれぞれ次の方へバトンを繋ぎながら、近況報告を交え同窓生の輪が広がればと願っております。

●今年度、5年ぶりに同窓生名簿が発行されました。すでにご注文されました方々にはお届けしておりますが、購入ご希望の方は同窓会事務局までご連絡ください。

（会報編集委員長：阿部 緑）

キリトリ線

JR京都駅北側バスターミナルC2のりば

京阪京都交通バス 2・14・28 系統に乗り、芸大前（約45分）下車。徒歩すぐ。

阪急桂駅東口

京阪京都交通バス1・2・13・14・25・28 系統に乗り、芸大前（約20分）下車。徒歩すぐ。

JR桂川駅・阪急洛西口駅

京阪京都交通バス11A系統（京都成章高校前行き）に乗り、芸大前（約15分）下車。徒歩すぐ。

